『SDGs環境教育プログラム』におけるロジックモデル

S-PULSE

凡例：直接的な受益者　波及先

受益者

- ①リサイクルプログラムの参加者（幼稚園生～中学生）
- ①リサイクルプログラムの参加者の保護者・家族
- ②サッカー交流戦の参加者（小学3-6年生）
- ③工場見学の参加者（小学3-6年生）
- クラブ
- パートナー企業
- 静岡県
- 参加者の友人・親族
- 寄贈先の学校生徒
- 地元企業
- ②サッカー交流戦参加者の保護者・家族
- ③工場見学に運営協力する高校生

初期成果(実施後)

- リサイクルプログラムへの参加を通じて、環境問題や気候アクションについて興味・関心を持つようになる
- リサイクルプログラムに参加した子どもたちからの雑紙回収によりCO2排出量が削減される　算定対象
- サッカー交流戦に参加した子どもたちの雑紙回収によりCO2排出量が削減される　算定対象
- チームスポーツを通じて、様々な人とコミュニケーションを取ることの楽しさ、重要性に気付く
- 参加者同士の交流により、社会的交流機会増加のきっかけとなる
- 本プログラムへの参加を通じて、環境問題や気候アクションについての理解が向上する
- 自身の将来（キャリア）について意識する
- パートナー企業について興味・関心を持つ
- 地元企業で働くことについて興味・関心を持つ
- 地元企業について知る
- 環境教育授業の取り組み認知・関心が向上する
- 自社の取組みへの認知・関心が高まる
- 協創を通じて他企業とつながりができる
- 参加者同士の交流により、社会的交流機会増加のきっかけとなる

中期成果(～1年)

- 環境問題を自分ごと化して、日常生活において身近にできることから取り組むようになる
- 自己学習により理解が深まる
- 環境問題に対する関心や気候アクションの大切さが周囲に伝播する
- 気候アクションについて興味・関心を持つようになる
- 日々の生活の中でも、コミュニケーション力を意識して他者と対話する
- コミュニケーション力が付き、人間関係構築力が高まる
- コミュニティが形成され、交流機会が増加する
- 日常生活において身近にできることから取り組むようになる
- 自己学習により理解が深まる
- 環境問題に対する関心や気候アクションの大切さが周囲に伝播する
- 環境配慮型の仕事への理解の深化やグリーンジョブへの興味・関心が高まることにより、キャリアについて周囲の人と話す機会が増える
- 地元企業について他者へ魅力を伝え、関心を持つ人材が増える
- クラブが推進する気候アクションへの参加者が増え、地域への影響力が高まる
- ブランド価値向上による、ファンベースの維持・拡大およびパートナー企業の維持・新規獲得
- 自社事業への共感者・支持者の増加
- 新たなビジネス機会の創出
- 別イベントの実施
- 更なるビジネス機会・他企業との協創機会の獲得
- 気候アクションについて興味・関心を持つようになる
- 気候アクションについて興味・関心を持つようになる

長期成果(1年～)

- クラブの事業収益の拡大
- 企業価値の向上に伴う経済効果の獲得（採用効率向上、人的資本の質向上、退職率低減等）
- 新たな収益源の獲得
- 地域全体でのCO2排出量が削減される　算定対象
- 人間関係構築力を活かして、他者と良好な関係を築き、満足度高く日々を過ごす
- 地域のコミュニティ基盤が強化され、生活満足度の高い住民が増える
- 質高くキャリアについて検討する時間が増え、納得いくキャリア選択によってwell-beingが高まる
- 地元企業への就職率が高まり、地元企業の人材不足の解決につながる

ゴール

- 地域住民・学校・企業・自治体・クラブが連携し、雑紙資源を地域内で循環させる仕組みを確立することで、資源リサイクルの取り組みが継続的に実践されている状態
- サッカーを通じた交流を通じ、コミュニケーション力を獲得することで、人間関係構築をスムーズにすることができ、満足度高く日々を過ごす人材が増える
- 地元企業においてやりがいをもって働く若手人材の確保が進み、離職率が低位にとどまることで、地域の人口流出を防ぐことにつながる

社会課題解決文脈

価値向上文脈

※企業価値向上文脈に関しては、社会価値の算出は実施しない

Copyright ©S-PULSE All Rights Reserved.